環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.45
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財) 千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043−246-2180
FAX 043−246-6969

「夏休みおやこ体験活動２００５」を、印旛沼流域で開催しました！
～印旛沼をきれいにする活動～

桑波田　和子

見て！さわって！感じて！考えて！の親子体験活動を夏休みに印旛沼流域で開催しました。

今年で２年目となります。この活動は、印旛沼の水をきれいにするための一つの体験の場であり、広く啓発していく環境学習の場として位置づけています。

＜「屋形船に乗って印旛沼をよく見てみよう！」＞からスタート！

７月２４日、親子合わせて４６名が２艘の屋形船に乗り体験しました。オレンジのライフジャケットを着用し、「印旛沼について」の講師の説明をお聞きし、五感を使って「水質調査」「生き物調査」等、印旛沼をよく見ました。

＜花輪川、桑納川、新川＞

７月２５日（月）八千代市内の小学生親子、千葉ガールスカウト５７団(八千代市)、環パスタッフ合わせて３１名で体験しました。昨年のリピーターの小学生もいましたが、初めて参加する子どもたちが主です。３つのグループを３人のスタッフで担当し、まず花輪川の上流から、中流、下流、桑納川、新川と調べました。水の色や、臭いを表現する言葉がなかなかみつからず、皆で悩みました。ここでの驚きは、桑納川の岸辺にナガエツルノゲイトウが、繁茂していることでした。

＜手繰り川　＞

８月２日（水）千葉ガールスカウト８４団(佐倉市)、エコマインド生の親子、さくら人と自然をつなぐ仲間、環パスタッフ合わせて 25 名で体験しました。上流の水質は去年と比べて COD（パックテスト）では 13⇒9 でした。下志津橋では、前日仕掛けたトラップを引き上げたら、なんとブラックバスの子どもが捕まりました。子どもたちの目は生き物探しにきらきらしていました。

午後は、手繰り川、畔田での活動をしている「さくら人と自然をつなぐ仲間」の小野さんに手繰り川についてのお話しを聞きました。「ハグロトンボは川だけでなく周りの斜面林があることが必要」とのお話は、とても興味深いでした。

８月２７日、９月１９日と、佐倉市のサポートセンター

でまとめをしました。

＜高崎川、鹿島川＞

８月１０日、観察しました。地点は JR 佐倉駅近くの高崎川南公園、鹿島川は飯重橋です。水の色は少し黄色っぽいですが COD は４から６でした。橋の近くにはサクラオグルマの花が咲いていました。年々減少しているそうで保全したいものです。

８月２７日は、鹿島川の「大井戸橋」で２人（下泉森のサミット）で調査しました。近くにはこのチームが涵養林作りの活動の森があります。鹿島川は川に入れるところが無く、川に近づきにくいです。

＜二重川、神崎川、船戸＞

７月、８月、９月と船釜地区ガールスカウト第４７団と「鎌ヶ谷水循環を考える会」の会員で、調査をしました。今年で２年目になります。川の水が汚いので、「鎌ヶ谷水循環を考える会」のチームが結成

され、行政にも呼びかける活動が始まりました。
　以上さまざまな活動を展開しました。
２年目の活動でしたが、地域に定着し継続していく活動に広がっていると実感しています。

この夏休み親子体験活動を通して、自然を大切にする気持ち、水を大切にする気持ちが育ちあうこと、また多くの方にこの活動が広がることを願っています。

「エコメッセちば２００５を終えて」

エコメッセちば2005実行委員長　加藤　賢三

「エコメッセちば」は持続可能な社会の実現をめざして、市民が中心になり、市民・企業・行政のみんなが良好なパートナーシップのもとに協働し、開催する環境活動見本市です。子どもも大人も、みんなでつくる環境のためのお祭りです。あなたも私も千葉の環境の輪を拡げようという掛け声のもとで、今年は「めざせ、循環型社会　～熱っぽいちば　アイスる地球～」をテーマに、地球温暖化防止活動の推進に協力する形で、９月１８日に幕張メッセ国際会議場において１０年目の記念すべき「エコメッセちば２００５」を開催し盛況裏に終了することができました。開催に際しては，多くの方々からの暖かいご支援，ご協力を頂き，誠にありがとうございました。おかげさまで、来場者は6、６００名、ＨＰへのアクセスは１３、０００回に上りました。
　出展等に関しては、エコ商品の販売、製品展示、パネル紹介、市民団体等の環境活動の紹介、エコ商品の販売、製品展示、パネル紹介、企業等の環境対策、環境事業の紹介、学校等における取り組みなどの紹介、自治体等の環境施策、環境事業の紹介など、６５団体からの出展がありました。また、会場内では、エコステージとして、子供たちによる印旛沼の水質調査、エコレポーターによる「もったいないメッセージ」の発表、ロックソーランなどに続き、環境クイズ、クマゼミ調査、高森篤子氏の童謡などと使いまわしファッションショーのジョイント、など、盛りだくさんの出し物がありました。

「エコメッセちば」は第１回が１９９６年に始まり、今年で１０年目という区切りの年を迎えて、千葉で生まれたエコメッセちばのさらなる発展と２００６年の開催に向けての準備を進めたいと思いますので，今後ともご支援とご協力の程よろしくお願いいたします。

エコメッセちば 体験レポ1

阿久津　雄大　（大学生ボランティア　）

数学の方程式を解くとき，そこには決まった答えがある。ｘ＝１，ｙ＝２のように答えはひとつしかない。環境問題を考えるとき，それは当てはまらない。むしろ答えは無限大に広がっており，何が答えか，何が正しいかということはない。それがエコメッセ千葉で感じた空気だった。エコメッセには様々

なブースが出展していた。生物の視点から考えるクマゼミ調査のブースや，地球温暖化の問題を考えるいくつものブース。資源の有効活用をするという観点からのケナフバック販売，リサイクルブティック，割り箸リサイクル，着物リフォームなどそこには多種多様の答えがあった。環境問題はもはやボーダレス化している。ワンガリ・マータイさん提唱の「もったいない」を世界言語にすることや，会場の模様をネット配信し，世界中に環境について考えてもらおうというものもあった。

私はこの手のボランティア活動に参加したのは初めてである。私が環境問題について考えるようになったのは，４・５年前だったように思う。世界がアメリカ対イスラム社会の混沌とし始める原因が２００１年の９－１１同時多発テロ。今でも私たちの生活は化石燃料に頼る生活をしている。石油はどこで取れるのか。イスラム社会の下である。OPECが管理する。アメリカが欲しがる。戦争をする。少なくともこの２０年間は石油戦争をしている。これは併催イベントで講演した田中優氏の言葉を借りることになるが，自然エネルギーを作り出すことによって石油依存社会から脱却し，同時に自発的な雇用を生み出すということにも繋がっていく。環境問題の最終的なゴールは，我々にとって住みやすい地球，環境を作り，後世によりよい地球を継いでいくということではないだろうか。この田中氏の考え方には感銘を受けた。もしかすると私は４・５年前から漠然とではあるが，環境問題について考えていたのかもしれない。もう一つの転機は今年７月に行われたap bank fes05'である。世界でもまれなこの環境フェスは動員数６万人を突破させた大規模フェスである。注目すべきはライブの使用電力が地球エネルギーによるもの，ごみの仕分けは９種類，フードエリアには無添加有機物のオーガニックフード販売など，徹底的にエコロジーに寄与するフェスであった。このフェスも，今回のエコメッセちばも目標は一つ，よりよい環境を作っていくことである。方法は様々である。

もう一度書こう。答えは一つではない。様々な考え方があるからこそ，様々な解決法がある。このエコメッセちばで学んだことを大切にして，これからの環境問題を真摯に向き合っていきたい。

エコメッセちば

体験レポ2

芳川　江美積　（実行委員、大学生）

エコメッセちばを通じて、さまざまな企業やボランティア団体が環境問題に対して本当に真剣に取り組んでいることが分かりました。取り組み方もさまざまで、”環境を守るってこんな事からできるのか”と感心してばかりでした。わたしはエコメッセちば会場内を案内するエコツアーというイベントをスタッフとして手伝っていましたが、エコツアーに参加してくれた子供も大人もみな楽しそうで、真剣に話をきいていました。子供たちは特に体験できるコーナーに興味をもっていて、自転車で発電するコーナーや間伐材で作るおもちゃ作りに興味津々でした。お母様方は省エネグッズやゴミ問題などに注目されていたり、お父様方は新エネルギーや最新の技術に興味をもたれていました。エコツアーでいろんな方と一緒に見学するうちに、ふと気付いたことがありました。それは、環境問題について興味を持てる分野は誰にでもあるはず！ということです。環境問題って難しくて一人で解決できない問題だとお考えの方は多いのではないでしょうか。説明している出展者の方々がおっしゃっていましたが、環境問題の改善について出来ることはたくさんあるのです。”環境”とは分かりやすくいうと＜人間の周り＞という意味だと思います。今回のエコメッセちばで聞いた事のなかで興味を持ったことから、まず、自分の周りから実行してみるといいと思います。マイバックを持ったり、電気のつけっぱなしをやめたり、ゴミを分別したり。私もエコメッセに参加してから、買い物用のビニール袋を断ったり、ペットボトルを買わず家から麦茶を持ってきたり、できることから始めてみました。すると、少しいいことをした☆という気分になって、その日がなんとなくハッピーにすごせたりしました。硬く考えずにできることから実行していこうと思いました。

環境シンポジウム2005千葉会議
第2分科会は、「ＰＥＴボトル物語　－便利だけど…－」。

第2分科会【ごみ問題分科会】井上　健治

ごみ問題を絞り込んでＰＥＴボトルに注目した分科会を、９月１１日（日）に日本大学生産工学部津田沼キャンパスにおいて、開催しました。年間約40万トン生産されるＰＥＴボトルの製造から廃棄までの現状や問題点を学び、消費者として関わる私たちの役目、温暖化との関係やその背後にある「ごみ問題」を考えました。まず、ストップおんだん館のインタープリター講習受講者より「地球温暖化現象とＰＥＴボトルのエネルギー問題」ＰＥＴボトルが完成するまでにどれぐらい地球のエネルギーを使用しているのか？自分たちの身近なものを製造する際のエネルギーを見つめることで、当たり前にあるものを作る為のエネルギー・資源に気づき、「物」との付き合い方を振り返ってみる提案がなされ、５００ｍｌのＰＥＴボトル１本作るのに必要なエネルギー約８,７００歩を参加者３名に実感体験して頂きました。

２番目にＰＥＴボトルリサイクル推進協議会より、ＰＥＴボトル処理が容器包装リサイクル法の施行以来、短期間で世界最高水準の回収率を達成した状況、3番目に佐原市清掃事務所から、ユーモアたっぷりに佐原市の収集の現状と市民のマナーについて、最後にPETボトル再商品化事業者から最新の状況など、貴重な報告がされました。休憩を挟み、４

～5人のグループに別れ、テーマの「便利だけど…」…の部分を意見交換し、結果をグループから提案発表して頂きました。ＰＥＴボトル容認派、否定派、リサイクルを進めるグループなど観点はさまざまでしたが、他の発表を真剣に聞かれ、会場がひとつにまとまった気がしました。提案の内容が、リサイクルに偏った傾向がありますが、テーマを絞ることによりＰＥＴボトル処理から見えてくるごみ処理の矛盾など、一人一人が係れる「ごみ問題」は、環境問題のいろいろを含んでいる気がします。

環境シンポジウム2005千葉会議全体会開催
もう待てないストップ温暖化　～千葉からアクションを～

環境シンポジウム2005千葉会議実行委員会企画部会　桑波田　和子

９月９日の第３分科会（里山・川･湿地）を皮切りに、９月１１日第２分科会（ゴミ問題）、９月２４･２５日第４分科会（環境教育）、１０月１日の第５分科会（環境保全）と開催されました。会場は千葉大学、日本大学、県立手賀の丘少年自然の家をお借りして、時には熱く意見交換や交流啓発の場となりました。お泊り分科会では、寝食をともに交流と研鑽の場ともなりました。各分科会の報告を持ち寄り、**１１月１３日（日）、千葉大学において全体会が開催**されます。

今年のテーマは、**「もう待てないストップ温暖化～千葉からアクションを～」**です。
温暖化防止のために私達は何ができるのか？どうすれば良いのか？

地球市民の一人として、地域（足元）からできること、社会システムの変更が必要とされる事などについて検討し、千葉からのアクションにつなげるための場として、実行委員会は準備しております。今年は特別企画としまして、大学生のワークショップが開催されます。大学でできることなどについて、頼もしい活動が展開します。また、市民と行政との協働への取組みとして、事例報告の場も持ちました。パネルディスカッションでは、市民･企業･自治体･大学の方をパネリストにお迎えし、フロアーの方のご意見もいただき、千葉からの具体的なアクションにつなげたいと思います。

是非多くの方のご意見を頂きたいと思います。ご参加をお願いいたします。

日時：11月13日（日）Am10：00～Pm3：00（受付9：30～）
会場：千葉大学　西千葉地区総合校舎

10：10　基調講演　「 定常型社会のビジョン 」
千葉大学公共研究センター長　廣井　良典氏
10：45　ポスターセッション（分科会報告およびワーキンググループ）
11：15　分科会・学生ワークショップの開催
12：00　昼食　（持参、ゴミは各自持ち帰り願います）
12：40　事例発表（温暖化防止の取組みを中心とした、自治体との協働について）
講演　千葉大学教授　倉阪　秀史氏
「温暖化対策を中心とする自治体との協働について」
12：55　自治体事例報告　・千葉県　・千葉市　・市川市　・船橋市　・茂原市
13：50　パネルディスカッション
テーマ「もう待てないストップ温暖化　～千葉からアクションを～」
パネリスト　市民・・・ストップ地球温暖化千葉推進会議事務局長　内野　英哲氏
企業・・・三井化学（株）市原工場　環境安全部長　高木　彰信氏
学生・・・千葉大学環境 ISO 学生委員会　山田　展子氏
行政・・・市川市役所環境清掃部環境政策課　川奈部　哲夫氏
・コーデイネーター　日本大学教授　木田　哲量氏
15：00　閉会

井上ひさし氏を招いて

環境破壊の極としての原爆　戦争
―　人類の上に落とされた
人間による地獄　―

高橋　晴雄

作家の“井上ひさし”を招いての講演会が７月、８月、９月と千葉県で３回開かれました。千葉市八千代市そして四街道市です。

今年は被爆 60 周年。いずれの会場も立見席が出るほどの盛況で、聴衆を笑の渦に誘いつつ、平和と憲法の大切さを語りました。

環境パートナーシップちば（以下環パちば）の仲間をも顔を見せ、改めて“平和”について思いを新たにしました。１１００名を集めた四街道文化センターでの２時間半に及ぶ氏の講演を中心に環境に焦点を当て考えてみたいと思います。）

環境破壊の極としての原爆　戦争
―　人類の上に落とされた
人間による地獄　―

演劇や映画の“父と暮らせば”の作者井上氏はあの日、あの時の原爆投下直後の様子を丁寧にたどります。熱線、爆風、放射能により一瞬にして沈黙の死の廃墟と化した広島の様子を語りました。（千葉県被爆者友愛会が主催した、千葉市での講演は特に刻明をきわめていました）。あたう限りのあらゆるデーター、資料を読み込み、被爆地に自ら身を沈め、のみ込んだ上での氏の語り口に多くの聴衆は引き込まれていきました今も尚つづいている苦しみ。そんな思いの聴衆に氏はずばり語ります。

戦争がなかったら原爆は落とされなかった。でも今も戦争が。正義の名で

まさにその通りです。戦争がなかったら広島や長崎沖縄　東京など一瞬にしてそれぞれ１０万人の殺傷も、２０００万人のアジアの無辜の民の殺戮も。いやヴェトナムの枯れ葉作戦による山河の破壊も、多くのヴェトチャン　ドクチャンもなかったはずです。私は当地で体がくっついた１２組のうち数組に会いました。また穴ぼこだらけの山ヤマを見てきました。地雷原も訪ねました。思い出すと今でも身がふるえます。それは単に過去の出来事ではありま

せん。いま　劣化ウランの放射能に体をむしばまれていくイラクの子どもたちがいます。パレスチナしかり。コソボしかり。アフガニスタンなどなど。戦争や紛争はいまも世界各地でつづき多数の犠牲者がうまれています。さらにここ千葉には被爆後６０年間も苦しみ抜いてこられた２７００人の被爆者もおられます。昨年は３千人以上でした。
９，１１を機に大国アメリカ、イギリスによる単独先制報復戦争が始まりました。侵攻の大義名分であったイラクに大量破壊兵器がありませんでした。いまや仕返しの連鎖で戦争は泥沼化。大国の武力を持ってしても他国を支配できないことも誰の目にも明らかになりつつあります。氏の話に戻りましょう。

戦争で報復や仕返しをしない勇気を
被爆者と日本国憲法

氏はアメリカをはじめ世界各地での「父と暮せば」上演の反響にふれ　観た方は被爆者の精神性の気高さに一様に驚きを表明したといいます。
あんなひどいことをされて仕返しをしたいと思う。でも被爆者は一生苦しみを背負いながら貴方にだけは私と同じような苦しみを与えたくないという思いで必死に原爆禁止を訴えている。その人間性の気高さに驚きを隠さない、と。
被爆者の方々の生き証人としての証言や努力が国際世論を動かしその後の原爆使用をやめさせたのです。朝鮮戦争時。キューバをめぐる米ソ対立時。インドパキスタン紛争時等々原爆使用の寸前までいったことを歴史が証明しています。さて戦争を永久に放棄した日本国憲法を持つ私たち。
そのおおかげで 60 年間戦争に公然と加担することを政府にゆるさなかった。２０００万人を殺傷されたアジア諸国が安心して日本と付き合えたのも戦争放棄の９条があったからという。日本の憲法はアジアの憲法であったのです。なるほど氏が大江健三郎氏や三木睦子氏（自民党元首相夫人）ら九氏で九条の会をつくり活動されている真意が伝わりました。人間を扱うことにたけたこの作家の透視力はあくまでも鋭くかつ暖かいものでした。周りをみると環ちばの仲間も来ておられました。緑の山河　小鳥や虫たち　里山を愛してやまない人たちです。子どもたちを千葉の自然で遊ばせたいしきれい名水屋空気を残したい。そんな思いが人一倍の人たちです。
戦争（武力）が環境破壊の最たるものなのでこの国を戦争が出来る国にはしたくないのです。四街道の実行委員会も環境や子ども　福祉や文化の市民活動の方がたでした。すべてが市民参加で、手づくりで行われました。
９，１１を境に戦争はあってはならないという圧倒的な国民的コンセンサスから戦争は出来る国へ、とシフトされ始めています。
戦争と環境破壊を繰り返させないため平和憲法の条項と価値を盾に私たち一人一人の戦前責任が問われる時代に入ったといえるでしょう。
井上ひさしの講演をそう受け止めました。

総務部より
運営委員会

９月の運営委員会
月日：9 月 27(火) pm3：00～5：30
場所：千葉市中央コミュニティセンター　52 講習室
１.報告
★印旛沼をきれいにする活動・・・「川の学校」
・7 月 24 日・・・「印旛沼屋形船親子体験」開催
・7 月 25 日・・・桑納川・新川水調べ（夏休み親子体験活動）開催
・8 月 2 日・・・手繰り川水調べ開催
・二重川・駒込川、鹿島川・高崎川、など水調べの活動を開催
★　印旛沼環境基金助成金（¥42,000 円決定）
11 月 24 日(木)　印旛沼までのエコウォーキング「花島公園から河口まで」
★　「環境シンポジウム千葉会議 2005」分科会開催、第 1～4 分科会まで終了。
★　「エコメッセちば 2005」開催
・9 月 18 日(日)幕張メッセ国際会議場で開催
・来場者数は 6,600 人、10 周年とのことから、「エコメッセちば 10 年の歩みコーナー」を設けた。
２.審議事項
★環パの HP について
・　環パの会員で、メールを持っている方は「だより」を HP で見ていただく。このために 45 号を郵送する際に、会員の希望を調査する。(ハガキで調査予定)
・　方向性として、県内の環境活動をしている多くの団体に広く呼びかけていきたい。
★　ベイエフエム基金 18 年度申請について
・　環パとして、川の学校を申請よてい
(申請日締め切り・・・9 月 30 日)
★　千葉市環境教育講座募集について
★　「印旛沼をきれいにする活動」報告会

参加者
大募集!

印旛沼をきれいにする活動2005報告会

～印旛沼こども会議～

日時　：　平成１７年１０月３０日(日)
場所　：　臼井田自治会館(臼井幼稚園前) ９時３０分集合(清掃に参加される方)

Ⅰ部　印旛沼清掃に参加

10：00～11：00　よみがえれ印旛沼の清掃に参加
11：00～12：30　自治会館移動、昼食

Ⅱ部　印旛沼こども会議

12：30～13：30．印旛沼をきれいにする活動の参加者による発表
1）夏休み体験活動振り返り
2）印旛沼
3）上手繰り川
4）高崎川・鹿島川
5）神崎川流域
6）桑納川流域
13：30～14：10 討論とまとめ

終了後は、「よみがえれ印旛沼　楽しい秋祭り in 佐倉 2005」(印環連主催) 印旛沼ウルトラクイズに自由参加！

河口から花島橋まで～

花見川から印旛沼までのエコウォーキング

日　　時　　：11 月 24 日（木）　9 時～15 時
集合時間・場所：9 時　JR 新検見川駅（海側）海浜バス停（4 番）千葉西高校行き
場　　所　　：千葉県印旛沼下水道事務所（見学）～花見川（花島橋まで）
持ち物　　：お弁当、水筒等
※歩きやすい服装、靴でご参加ください
※雨天の場合は、印旛沼下水道事務所のみ見学

「花見川から印旛沼までのエコウォーキング」17 年度は、河口から花島橋まで歩きます。
印旛沼下水道事務所で、下水道の話と活性汚泥の実験、処理水を利用したトンボ池を見学し、花見川を花島橋に向かって歩きたいと思います。そろそろ冬鳥が飛んできます。観察、説明を聞きながら水について話し合いませんか。
花見川終末処理場の見学も予定いたします。歩きやすい靴、服装でご参加ください。

主　　催　　：環境パートナーシップちば
問い合わせ・申し込み（上記２件）：桑波田
Tel/fax：043-258-5437
E-mail：kuwahatak@hotmail.com

お知らせコーナ

★ エコサロン

日時：2005年11月16日(水) 18:30～20:30
話題：「千葉県環境保全協議会」などについて
講師：　菅谷 政春氏
　　（千葉県環境保全協議会、局長補佐）
場所：船橋女性センター第一会議室
参加費:　500円(資料代)
申し込み問い合わせ：中岡丈恵
　Fax　：047-385-8950
　e-mail：naka.hta@trust.ocn.ne.jp

★ 印旛沼わいわい会議 in やちまた ～大地からのメッセージ～

日時：10月25日（火）
現地見学会:10時～12時
わいわい会議：13時～17時
場所：八街市中央公民館
主催：印旛沼流域水循環健全化会議
問い合わせ：千葉県　県土整備部
　　河川計画課　企画調整室
Tel：043-223-3155
fax：043-221-1950

★ ＮＰＯと県の意見交換会に参加しませんか！

今回は、下記の５つのテーマについて意見交換会を行います。①文化・スポーツ、②環境、③教育、④福祉、⑤まちづくり
開催日時：平成１７年１１月１４日（月）
　　午後１時～４時
場所：千葉市民会館
応募様式：参加申込書に必要事項を記入し、ＦＡＸ、郵便または、Ｅメールでお申し込みください。

申し込み　問合せ先
千葉県環境生活部ＮＰＯ活動推進課
ＮＰＯ事業室（榎橘・野口・海老根）
ＴＥＬ　０４３－２２３－４１６５・４１６６
ＦＡＸ　０４３－２２１－５８５８
Ｅ-mail npo-zigyou@mz.pref.chiba.jp
千葉県情報ネット　http://www.chiba-npo.jp

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：http://www.kanpachiba.com/

★ 印旛沼わいわい会議 in やちよ ～桑納川から新川に～

日時：11月5日（土）
現地見学会:10時～12時
わいわい会議：13時～17時
場所：八千代市役所
主催：印旛沼流域水循環健全化会議
問い合わせ：千葉県　県土整備部
　　河川計画課　企画調整室
Tel：043-223-3155
fax：043-221-1950

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
　　環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境活動推進ﾁｰﾑ気付

＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書

会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		